

栃木県不動産市場動向調査（DI）

第25回

令和 7 年 6 月

公益社団法人 栃木県宅地建物取引業協会

公益社団法人 栃木県不動産鑑定士協会

栃木県不動産市場動向調査（D I）第25回調査結果の公表について

このたび、公益社団法人栃木県宅地建物取引業協会及び公益社団法人栃木県不動産鑑定士協会で共同実施している「栃木県不動産市場動向調査（D I）」が25回目を迎え、公表する運びとなりました。

D Iとは、現況や先行きの見通し等についての定性的な判断を指標として集計加工した指数であります。D Iとして有名なものには景気動向指数（内閣府が公表する景気の動向指数）や業況判断指数（日本銀行が公表する景気判断の指数）等があり、景気の将来動向を予測する上で重要な指数となっています。

わたくしどもの「栃木県不動産市場動向調査（D I）」は、県内の不動産を対象として不動産の種類ごとの価格動向や需給動向について、実際に不動産の売買や仲介業務などに携わっている公益社団法人栃木県宅地建物取引業協会の会員に、過去半年間における実感と今後半年間における予測についてアンケートを実施し、これを指数化したものです。

県内の不動産市場動向を的確に把握するとともに、その成果を広く公表し、不動産取引の際の適正価格の指針としてご活用いただくことや、行政が効果的な土地住宅政策を実施できるような参考資料として役立てていただければと考えております。

この調査は継続的に実施することで、県内の市場動向を時系列的に把握することが可能となりますので、今後とも調査活動に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、お忙しいなか調査にご協力いただきました関係者の方々に心より御礼申し上げますとともに、本調査が県民の皆様への有用な情報提供になれば幸いに存じます。

公益社団法人 栃木県宅地建物取引業協会
公益社団法人 栃木県不動産鑑定士協会

目 次

[1] 栃木県不動産市場動向調査の概要

1. アンケート調査の概要	1
2. 動向指数（D I）について	2

[2] アンケート集計結果

1. 調査結果の概要	3
2. 動向指数（D I）による分析	
◇問2・問3 住宅地の取引価格	5
◇問2・問3 商業地の取引価格	6
◇問2・問3 中古住宅の取引価格	7
◇問4・問5 宅地の取引件数	8
◇問4・問5 中古住宅の取引件数	9
3. 設問ごとの回答内訳	
◇問2 取引価格の6カ月前（R6.10.1時点）との比較	10
◇問3 6カ月後（R7.10.1時点）の取引価格の予測	12
◇問4 取引件数の6カ月前（R6.10.1時点）との比較	14
◇問5 6カ月後（R7.10.1時点）の取引件数の予測	15
◇問6 賃料の6カ月前（R6.10.1時点）との比較	16
◇問7 入居率の6カ月前（R6.10.1時点）との比較	17
◇問8 近時の金利上昇傾向、資材価格高騰、LRTの開業や延伸計画及び市街地再開発事業による不動産価格への波及効果等、不動産市場を取り巻く環境の中でここ1年程度での変化等	18
4. 最近の不動産市場についての感想、アンケート回答の補足等の紹介	21

[参考] アンケート調査票	24
---------------------	----

[1] 栃木県不動産市場動向調査の概要

1. アンケート調査の概要

本調査は、公益社団法人栃木県宅地建物取引業協会と公益社団法人栃木県不動産鑑定士協会とが共同で、栃木県における令和6年10月1日時点から令和7年4月1日時点（今回調査時点）までの半年間の不動産市場に関する実感と、今回調査時点から半年後の令和7年10月1日時点における不動産市場に関する予測について調査を行ったものである。

なお、本調査は回答者の実感や予測を定性的に把握し指数化するものであり（2頁参照）、実際の取引価格や成約件数等を定量的に示す調査ではない。

◇調査時点： 令和7年4月1日

◇調査方法： 公益社団法人栃木県宅地建物取引業協会の会員に対するアンケート調査
（アンケート調査票の内容は巻末に記載）

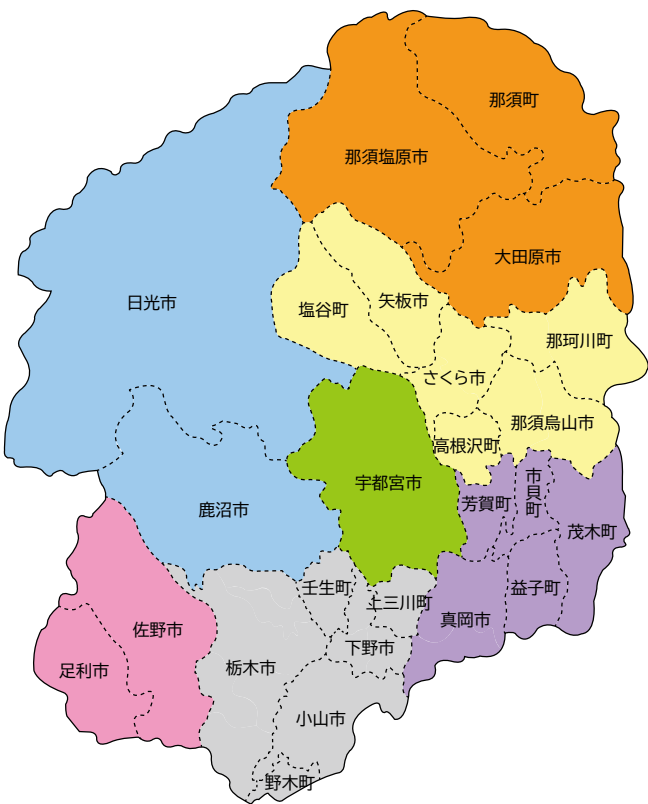
◇発 送 数： 1,294

◇回 答 数： 310（回収率24.0%）

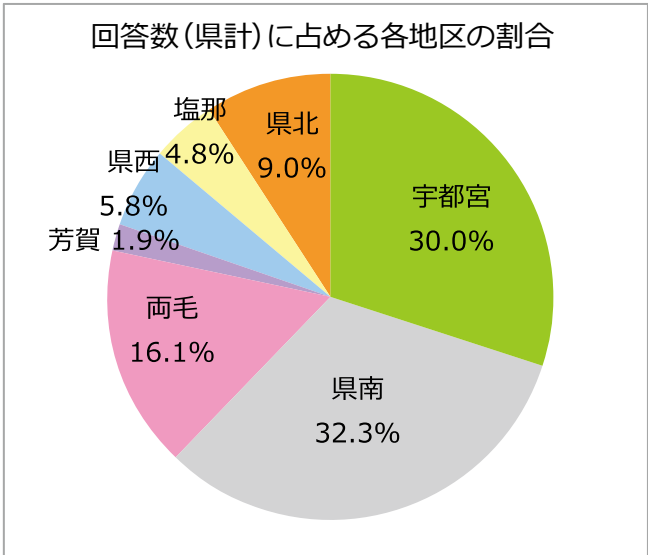
◇集計区分： 県内を宇都宮地区、県南地区、両毛地区、芳賀地区、県西地区、塩那地区、県北地区の7地区に区分し、集計を行った。

◇問 1： 回答者の主な営業地区

〔各市町の集計区分〕



集計区分	発送数	回答数	回収率	県計に占める割合
宇都宮地区	496	93	18.8%	30.0%
県南地区	294	100	34.0%	32.3%
両毛地区	163	50	30.7%	16.1%
芳賀地区	54	6	11.1%	1.9%
県西地区	75	18	24.0%	5.8%
塩那地区	73	15	20.5%	4.8%
県北地区	139	28	20.1%	9.0%
県計	1,294	310	24.0%	100.0%



※発送数は会員事務所所在地を、回答数は主な営業地区を基準に集計している。問2以降、複数の営業地区の選択があった場合はそれぞれを1回答として集計するため、ここでの回答数(県計)と一致しないことがある。

※ 回答内訳の割合(%)は、端数処理の関係で合計が100%にならないことがある。

2. 動向指数（D I）について

(1) D Iとは

D Iとは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、現況や先行きの見通し等についての定性的な判断を指標として集計加工した指数である。各種設問に対する回答数構成比率について長期の動きを時系列で追うのは煩雑となるが、D Iにすることにより、それらの動向の把握が容易になる。

D Iは、日本銀行が実施している全国企業短期経済観測調査（通称：日銀短観）や内閣府が発表している景気動向指数、民間では株式会社帝国データバンクが実施しているT D B景気動向調査等の各種調査において広く活用されている。

(2) 本調査におけるD Iの算出方法

本調査においては、設問ごとの5段階の選択肢「大きく上昇（増加）、やや上昇（増加）、横ばい、やや下落（減少）、大きく下落（減少）」に以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成割合に乗じて合計することにより、次式のとおり算出している。

選択肢	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	合計
回答数	A	B	C	D	E	F
点数	100	75	50	25	0	－

$$D I = (A/F \times 100) + (B/F \times 75) + (C/F \times 50) + (D/F \times 25) + (E/F \times 0)$$

数式上、D Iは0～100の範囲で算出される。

もし、回答者全員が「大きく上昇」を選択した場合は「100」、同じく全員が「大きく下落」を選択した場合は「0」となる。「横ばい」の回答割合が大きい場合には、D Iは50に近い値となる。

D Iが50を超えている場合は、「上昇（増加）」の回答割合が「下落（減少）」の回答割合より相対的に多くなっているといえる。

[2] アンケート集計結果

1. 調査結果の概要

◇住宅地の取引価格（10頁、12頁）

- 県合計では5割が「横ばい」で、3割弱が「やや上昇」、2割弱が「やや下落」であり、住宅地の取引価格はやや上昇傾向がうかがえる。
- 6カ月後の予測では5割強が「横ばい」で、2割強が「やや上昇」、2割が「やや下落」であり、現状よりやや悪化の予測となっている。

今回実感の回答構成は、県合計では「横ばい」50%、「大きく上昇」、「やや上昇」の合計が30%、「やや下落」、「大きく下落」の合計が20%となっており、DI値は52.6とやや上昇傾向であったことがうかがえる。なお、宇都宮、県南、芳賀、県北の4地区で50を上回り、県西の1地区は50、両毛、塩那の2地区で50を下回る結果となった。

今回実感の県合計は、前回調査時の予測（R6年10月時点の6カ月後予測、「大きく上昇」2%、「やや上昇」24%、「横ばい」56%、「やや下落」17%、「大きく下落」1%、DI値52.3）の回答割合と比べ、「大きく上昇」、「やや上昇」の合計が4ポイント増加、「横ばい」が6ポイント減少、「やや下落」、「大きく下落」の合計が2ポイント増加しており、前回予測よりもDI値が0.3ポイント上回る結果となっている。

今回の6カ月後の予測（R7年10月時点予測）は、県合計で「大きく上昇」、「やや上昇」の合計が25%で5ポイント減少、「横ばい」が54%で4ポイント増加、「やや下落」、「大きく下落」の合計が20%で同数とDI値51.6となっており、先行きについては今回実感（52.6）よりやや悪化の予測となっている。

◇商業地の取引価格（10頁、12頁）

- 県合計では5割弱が「横ばい」で、「やや上昇」、「大きく上昇」の合計が3割強、「やや下落」、「大きく下落」の合計が2割となっており、商業地の取引価格はやや上昇傾向がうかがえる。
- 6カ月後の予測では、「横ばい」が5割弱で、「やや上昇」、「大きく上昇」の合計が3割、「やや下落」、「大きく下落」の合計が約2割強と、現状よりやや悪化の予測となっている。

今回実感の回答構成は、県合計では「横ばい」49%、「大きく上昇」、「やや上昇」の合計が31%、「やや下落」、「大きく下落」の合計が20%で、DI値は53.0とやや上昇傾向であったことがうかがえる。なお、宇都宮、県南の2地区で50を上回り、両毛、芳賀、県西、塩那、県北の5地区は50を下回る結果となった。

今回実感の県合計は、前回調査時の予測（R6年10月時点の6カ月後予測、「大きく上昇」0%、「やや上昇」25%、「横ばい」50%、「やや下落」22%、「大きく下落」3%、DI値49.3）の回答割合と比べ、「大きく上昇」、「やや上昇」の合計が6ポイント増加、「横ばい」が1ポイント減少、「やや下落」、「大きく下落」の合計が5ポイント減少しており、前回予測よりもDI値が3.7ポイント上回る結果となっている。

今回の6カ月後の予測（R7年10月時点予測）は、県合計で「大きく上昇」、「やや上昇」の合計が30%で1ポイント減少、「横ばい」が48%で1ポイント減少、「やや下落」、「大きく下落」の合計が21%で1ポイント増加とDI値52.4となっており、先行きについては今回実感（53.0）よりやや悪化の予測となっている。

◇中古住宅の取引価格（11頁、13頁）

■県合計では概ね6割弱が「横ばい」、2割強が「やや上昇」、2割弱が「やや下落」で、中古住宅の取引価格はやや上昇傾向がうかがえる。

■6カ月後の予測では2割強が「やや上昇」、5割強が「横ばい」、2割が「やや下落」と回答し、今回実感と比較して若干改善する予測となっている。

今回実感の回答構成は、県合計では「横ばい」が56%、次いで「やや上昇」が22%で、その合計は全体の78%を占めている。DI値は51.3と前回DI値49.2より2.1ポイント改善し、中古住宅の取引価格はやや上昇傾向にある。

今回実感の県合計は、前回調査時の予測（R6年10月時点での6カ月後予測、「やや上昇」25%、「横ばい」48%、「やや下落」22%、DI値49.4）の回答割合と比べ「やや上昇」と「やや下落」が減少し、「横ばい」が増加する回答割合となっており、DI値は前回調査時の予測（49.4）より1.9ポイント改善した。

今回の6カ月後の予測（R7年10月時点予測）は、県合計で「やや上昇」が24%、「横ばい」が53%、「やや下落」が20%で、DI値は51.7となっており、先行きについては今回実感（51.3）より若干改善する予測となっている。

◇賃料・入居率（16頁、17頁）

■家賃は、住居系不動産、事業用その他不動産ともに概ね横ばいの傾向がうかがえる。

住居系不動産の家賃は、県合計では「横ばい」が59%である。一方、「やや上昇」が20%に対し「やや下落」が18%となっており、両率は概ね同様の水準となっていることから概ね横ばいの傾向が見受けられる。事業用その他不動産の家賃は、県合計では「横ばい」が60%、「やや上昇」が17%、「やや下落」が20%で、こちらも横ばい傾向である。

住居系不動産は、前回調査と比べてDI値が宇都宮地区は2.4ポイント、両毛地区は5.5ポイントそれぞれ改善した。一方で県南地区は3.3ポイント、芳賀地区は16.7ポイント、県西地区は6.8ポイント、塩那地区は6.3ポイント、県北地区は7.0ポイント悪化し、県計では前回のDI値52.7から51.7へと1.0ポイント悪化した。

事業用その他不動産については、前回調査と比べてDI値が宇都宮地区は2.7ポイント、両毛地区は7.9ポイント、塩那地区は0.5ポイント改善した。一方で県南地区は3.7ポイント、芳賀地区が21.2ポイント、県西地区は8.7ポイント、県北地区が10.5ポイントそれぞれ悪化した。県計では1.0ポイント減となって、やや悪化傾向にある。

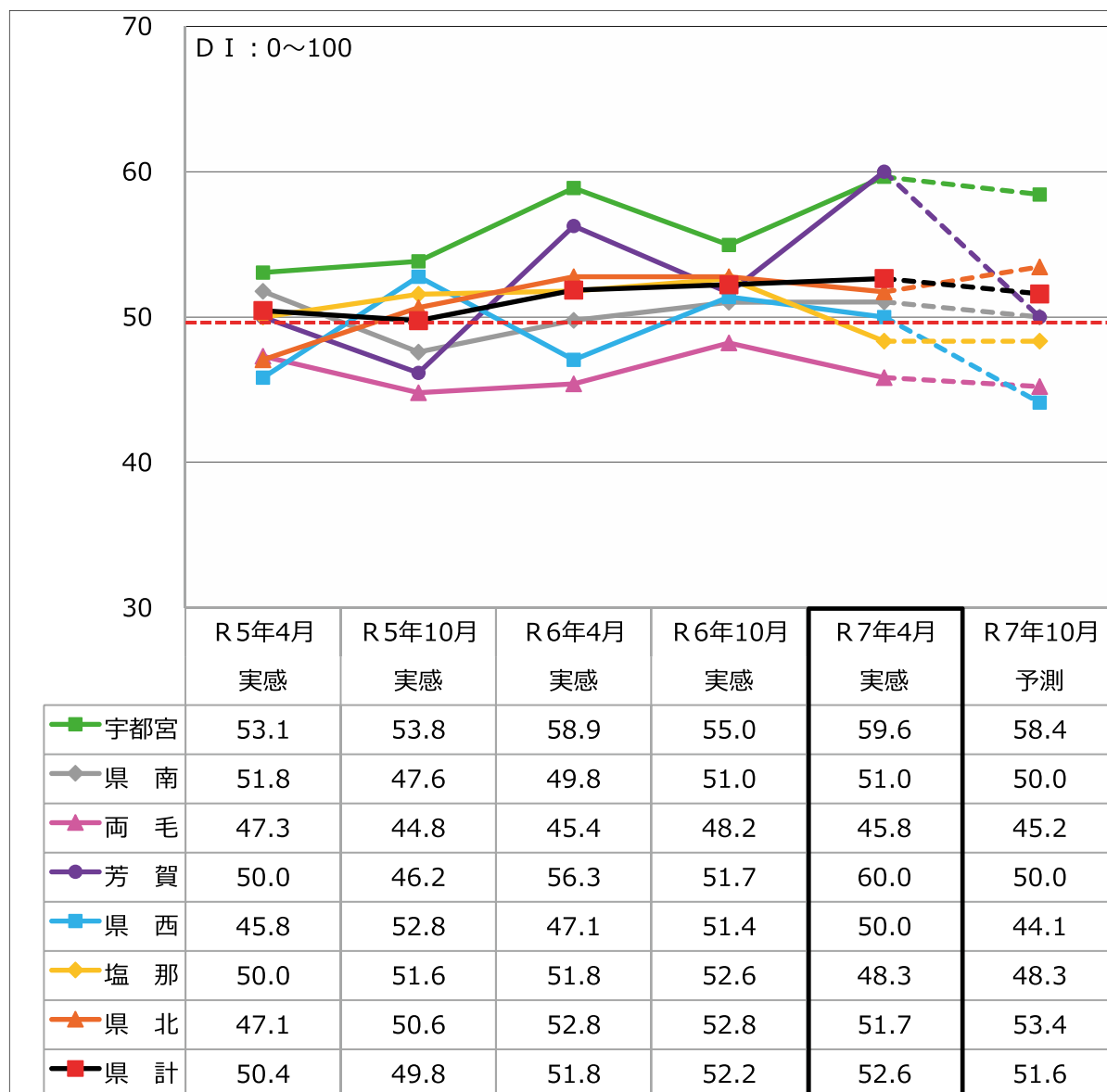
■入居率は、住居系不動産、事業用その他不動産ともに依然として下落傾向がうかがえる。

住居系不動産の入居率は、県合計では「やや上昇」が12%、「横ばい」が59%、「やや下落」が23%で、全体として下落傾向である。事業用その他不動産の入居率も、県合計では「やや上昇」が9%、「横ばい」が60%、「やや下落」が26%で全体として下落傾向である。

前回調査に比べ県合計の入居率は、住居系不動産では「やや上昇」及び「やや下落」の回答割合が増加。県計では前回のDI値46.2から48.3へと2.1ポイント改善。事業用その他不動産では「やや上昇」の割合が減少し、県計では前回のDI値46.5から45.9へと0.6ポイント悪化。住居系不動産、事業系不動産ともに下落傾向にあるものの、住居系不動産はやや改善、事業系不動産はやや悪化傾向にある。

2. 動向指数（D I）による分析

◇問2・問3 住宅地の取引価格



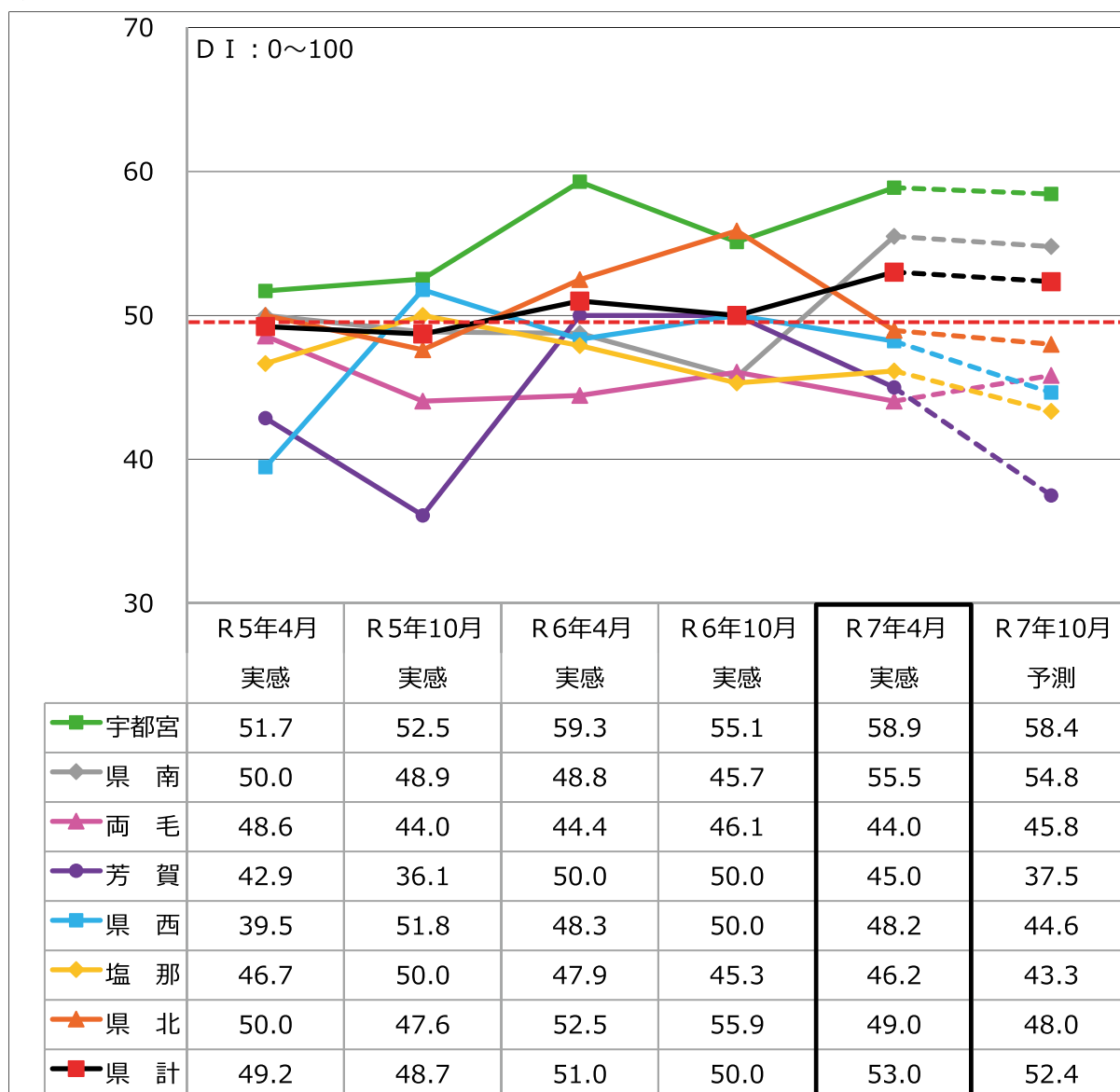
■ 6カ月前との実感比較では、芳賀地区・宇都宮地区で改善し、県合計のDI値は50を上回っている。

■ 6カ月後の予測においても、県合計のDI値は50を上回る予測となっている。

調査時点（R7年4月）の住宅地の取引価格について、県合計のDI値は52.6で、前回調査に比べ0.4ポイント改善した。地区別に見ると、芳賀地区（8.3ポイント増）、宇都宮地区（4.6ポイント増）の2地区で前回より改善した。なお、前回調査時（R6年10月）の予測値（県合計52.3）を今回の実感値は0.3ポイント上回っている。

調査時点から6カ月後（R7年10月）の住宅地の取引価格予測について、県合計のDI値は51.6で、今回実感と比較すると1.0ポイント減の予測となっている。地区別では、改善を予測しているのが県北地区（1.7ポイント増）のみで、芳賀地区（10.0ポイント減）、県西地区（5.9ポイント減）、宇都宮地区（1.2ポイント減）、県南地区（1.0ポイント減）、両毛地区（0.6ポイント減）の5地区が悪化の予測、塩那地区が変わらずの予測となっている。

◇問2・問3 商業地の取引価格



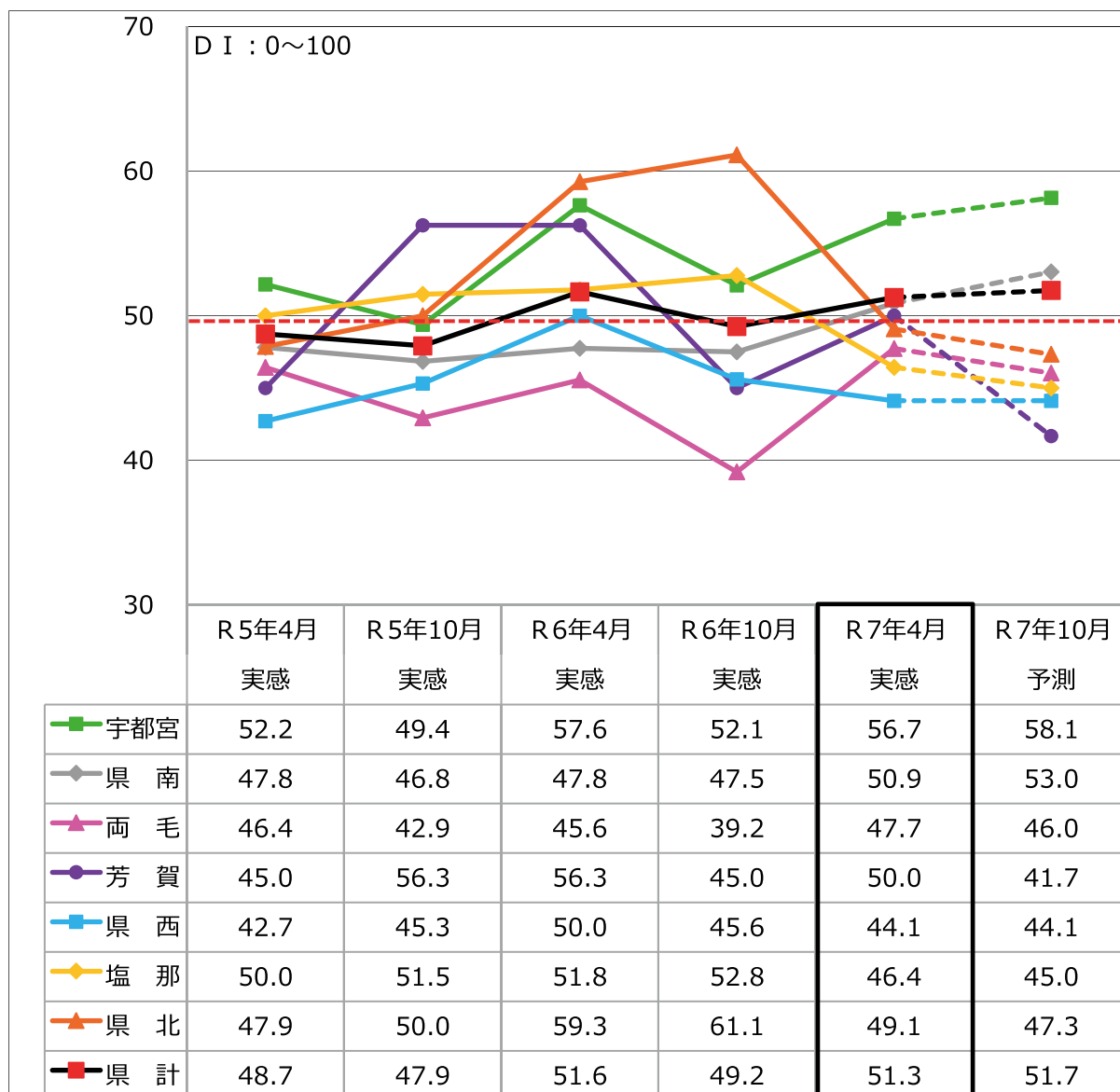
■ 6カ月前との実感比較では、県合計のDI値は3ポイント改善している。

■ 6カ月後の予測では、依然として県合計のDI値は50を上回る予測となっている。

調査時点（R7年4月）の商業地の取引価格について、県合計のDI値は53.0で、前回調査に比べ3.0ポイント改善した。地区別に見ると、県南地区（9.8ポイント増）、宇都宮地区（3.8ポイント増）、塩那地区（0.9ポイント増）の3地区が改善した一方、県北地区（6.9ポイント減）や芳賀地区（5.0ポイント減）など4地区が悪化となっている。なお、前回調査時（R6年10月）の予測値（県合計49.3）を今回の実感値は3.7ポイント上回っている。

調査時点から6カ月後（R7年10月）の商業地の取引価格予測について、県合計のDI値は52.4で、今回実感と比較すると0.6ポイント下回るが依然として50を上回る予測となっている。地区別では、改善を予測しているのが両毛地区（1.8ポイント増）の1地区、悪化を予測しているのが芳賀地区（7.5ポイント減）、県西地区（3.6ポイント減）、塩那地区（2.9ポイント減）、県北地区（1.0ポイント減）、県南地区（0.7ポイント減）、宇都宮地区（0.5ポイント減）の6地区となっている。

◇問2・問3 中古住宅の取引価格



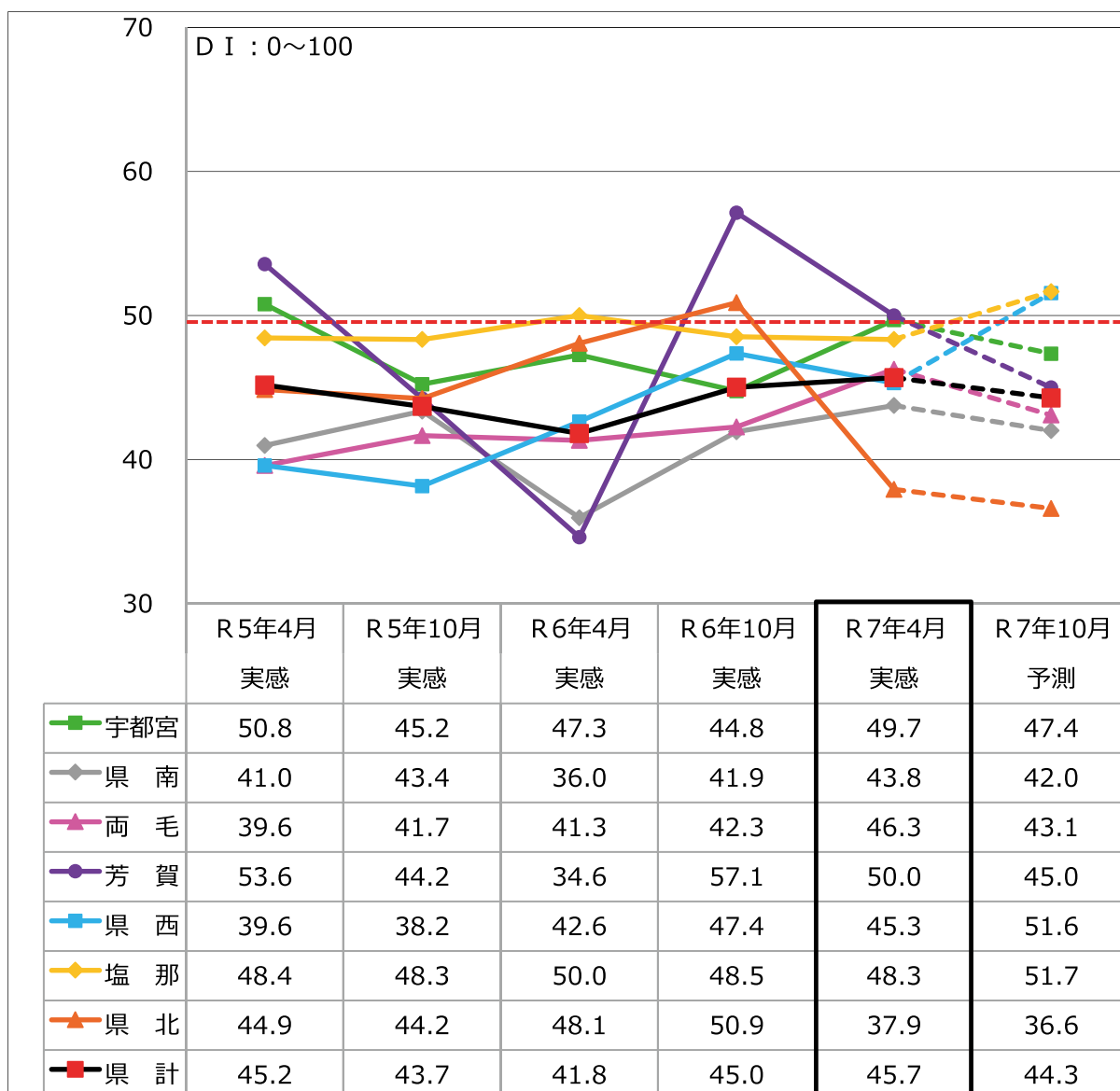
■ 6カ月前との実感比較では、両毛地区など4地区で改善し、県合計のDI値は50を上回る。

■ 6カ月後の予測においても、県合計のDI値は50を上回る予測である。

調査時点（R7年4月）の中古住宅の取引価格について、県合計のDI値は51.3で、前回調査に比べ2.1ポイント増となり、地区別では両毛地区（8.5ポイント増）、芳賀地区（5.0ポイント増）など4地区で改善している。なお、前回調査時（R6年10月）の予測値（県合計49.4）を今回の実感値は1.9ポイント上回っている。

調査時点から6カ月後（R7年10月）の中古住宅の取引価格予測について、県合計のDI値は51.7で、今回実感と比較すると0.4ポイント増の予測である。県南地区（2.1ポイント増）及び宇都宮地区（1.4ポイント増）の2地区においては改善の予測、芳賀地区（8.3ポイント減）、県北地区（1.8ポイント減）など4地区が悪化の予測、県西地区が変わらずの予測となっている。

◇問4・問5 宅地の取引件数



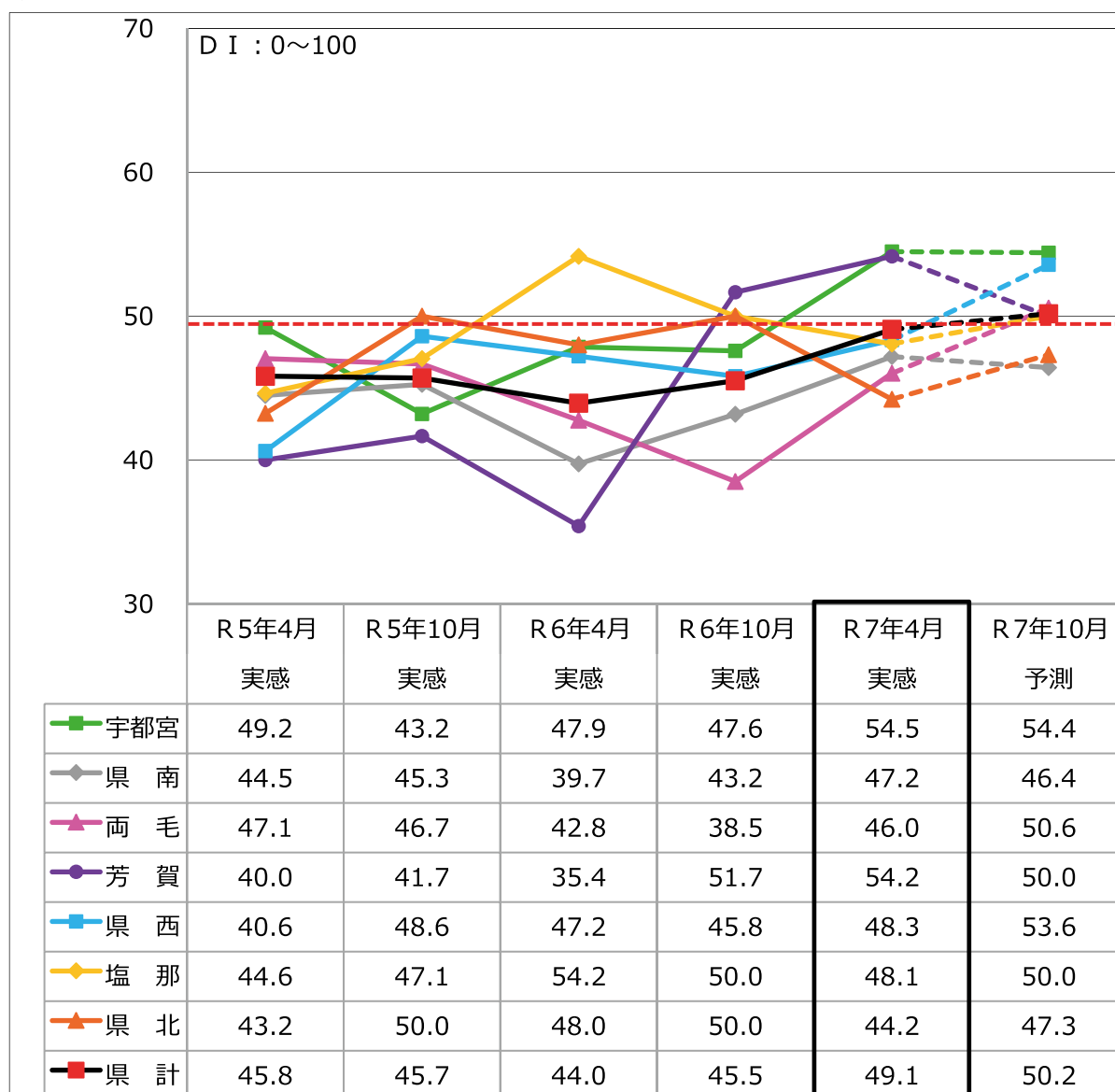
■ 6カ月前との実感比較では、宇都宮地区など3地区で改善、県北地区など4地区で悪化している。

■ 6カ月後の予測では、県合計のDI値は50を下回り、依然として減少傾向が続く予測である。

調査時点（R7年4月）の宅地の取引件数について、県合計のDI値は45.7で、前回調査に比べ0.7ポイント増となり、地区別では宇都宮地区（4.9ポイント増）、県南地区（1.9ポイント増）、両毛地区（4.0ポイント増）で改善が見られた。一方、芳賀地区（7.1ポイント減）、県西地区（2.1ポイント減）、塩那地区（0.2ポイント減）、県北地区（13.0ポイント減）は悪化している。なお、前回調査時（R6年10月）の予測値（県合計46.2）を今回の実感値は0.5ポイント下回っている。

調査時点から6カ月後（R7年10月）の宅地の取引件数予測について、県合計のDI値は44.3で、今回実感と比較すると1.4ポイント減であり、引き続き50を下回る予測である。地区別では、改善を予測しているのが県西地区（6.3ポイント増）、塩那地区（3.4ポイント増）の2地区、悪化を予測しているのが宇都宮地区（2.3ポイント減）、県南地区（1.8ポイント減）、両毛地区（3.2ポイント減）、芳賀地区（5.0ポイント減）、県北地区（1.3ポイント減）の5地区となっている。

◇問4・問5 中古住宅の取引件数



■ 6カ月前との実感比較では、宇都宮地区など5地区で改善している。

■ 6カ月後の予測では、県合計のDI値は50を若干上回り、下落から横ばいに転じる予測である。

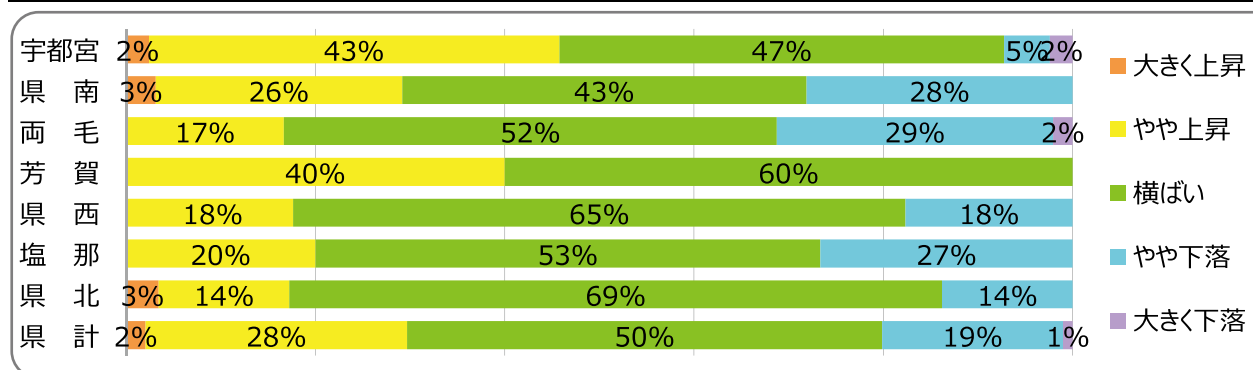
調査時点（R7年4月）の中古住宅の取引件数について、県合計のDI値は49.1で、前回調査に比べ3.6ポイント増となり、地区別では両毛地区（7.5ポイント増）で大きく改善し、宇都宮地区（6.9ポイント増）、県南地区（4.0ポイント増）、芳賀地区（2.5ポイント増）、県西地区（2.5ポイント増）でも改善が見られた。なお、前回調査時（R6年10月）の予測値（県合計46.9）を今回の実感値は2.2ポイント上回っている。

調査時点から6カ月後（R7年10月）の中古住宅の取引件数予測について、県合計のDI値は50.2で、今回実感と比較すると1.1ポイント増であり、50を若干上回る予測である。地区別では、改善を予測しているのが両毛地区（4.6ポイント増）、県西地区（5.3ポイント増）、塩那地区（1.9ポイント増）、県北地区（3.1ポイント増）の4地区、悪化を予測しているのが宇都宮地区（0.1ポイント減）、県南地区（0.8ポイント減）、芳賀地区（4.2ポイント減）の3地区となっている。

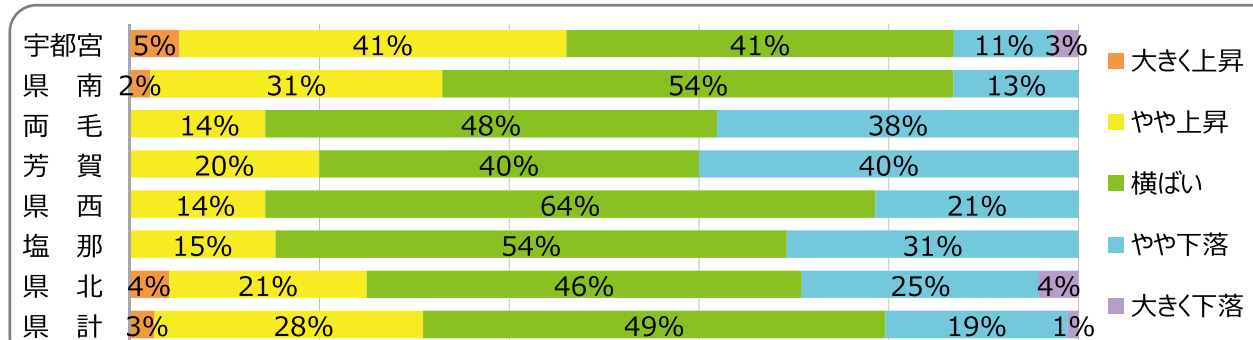
3. 設問ごとの回答内訳

◇問2 取引価格の6カ月前（R6.10.1時点）との比較

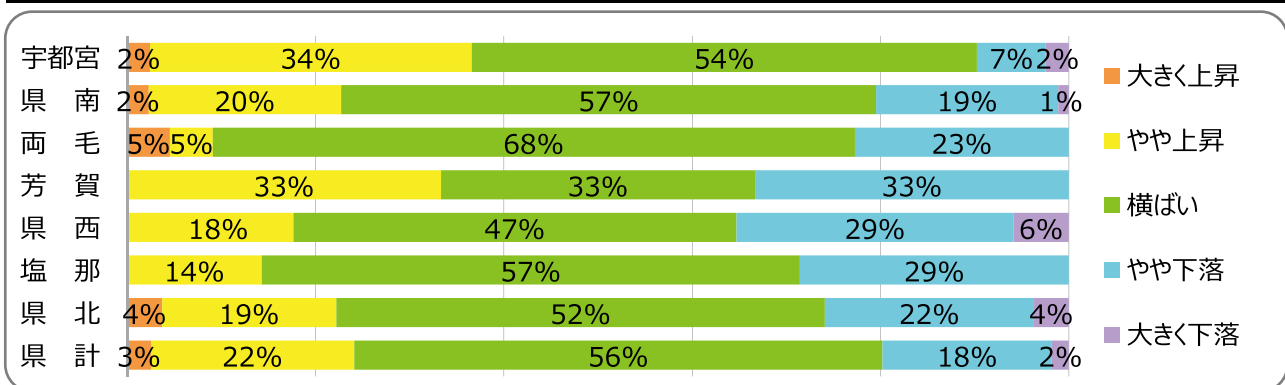
住 宅 地 の 地 価 (実 感)									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	取引無	合計
宇都宮	59.6	2	36	39	4	2	83	12	95
		2%	43%	47%	5%	2%	100%		
県 南	51.0	3	25	41	27	0	96	8	104
		3%	26%	43%	28%	0%	100%		
両 毛	45.8	0	8	25	14	1	48	4	52
		0%	17%	52%	29%	2%	100%		
芳 賀	60.0	0	2	3	0	0	5	1	6
		0%	40%	60%	0%	0%	100%		
県 西	50.0	0	3	11	3	0	17	3	20
		0%	18%	65%	18%	0%	100%		
塩 那	48.3	0	3	8	4	0	15	2	17
		0%	20%	53%	27%	0%	100%		
県 北	51.7	1	4	20	4	0	29	3	32
		3%	14%	69%	14%	0%	100%		
県 計	52.6	6	81	147	56	3	293	33	326
		2%	28%	50%	19%	1%	100%		



商 業 地 の 地 価 (実 感)									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	取引無	合計
宇都宮	58.9	4	31	31	8	2	76	19	95
		5%	41%	41%	11%	3%	100%		
県 南	55.5	2	28	49	12	0	91	13	104
		2%	31%	54%	13%	0%	100%		
両 毛	44.0	0	6	20	16	0	42	10	52
		0%	14%	48%	38%	0%	100%		
芳 賀	45.0	0	1	2	2	0	5	1	6
		0%	20%	40%	40%	0%	100%		
県 西	48.2	0	2	9	3	0	14	6	20
		0%	14%	64%	21%	0%	100%		
塩 那	46.2	0	2	7	4	0	13	4	17
		0%	15%	54%	31%	0%	100%		
県 北	49.0	1	5	11	6	1	24	8	32
		4%	21%	46%	25%	4%	100%		
県 計	53.0	7	75	129	51	3	265	61	326
		3%	28%	49%	19%	1%	100%		

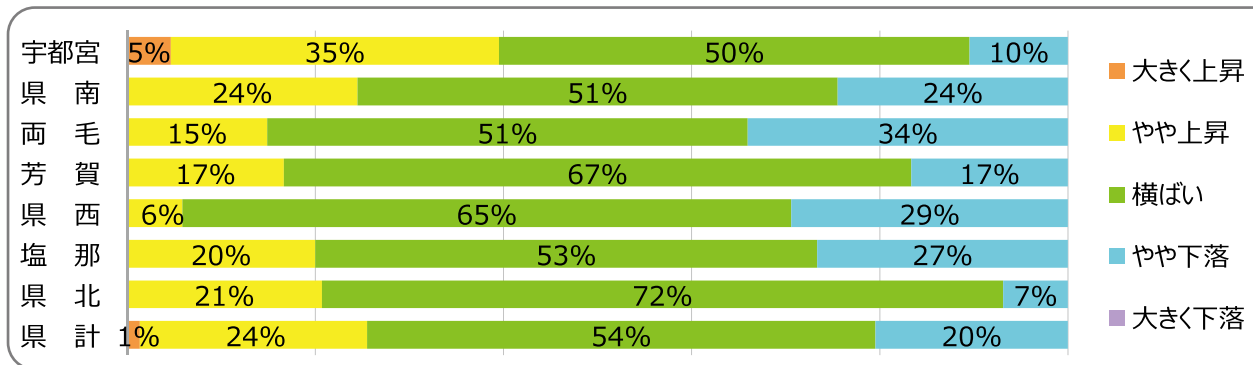


中古住宅の価格（実感）									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	取引無	合計
宇都宮	56.7	2	28	44	6	2	82	13	95
		2%	34%	54%	7%	2%	100%		
県 南	50.9	2	18	50	17	1	88	16	104
		2%	20%	57%	19%	1%	100%		
両 毛	47.7	2	2	30	10	0	44	8	52
		5%	5%	68%	23%	0%	100%		
芳 賀	50.0	0	2	2	2	0	6	0	6
		0%	33%	33%	33%	0%	100%		
県 西	44.1	0	3	8	5	1	17	3	20
		0%	18%	47%	29%	6%	100%		
塩 那	46.4	0	2	8	4	0	14	3	17
		0%	14%	57%	29%	0%	100%		
県 北	49.1	1	5	14	6	1	27	5	32
		4%	19%	52%	22%	4%	100%		
県 計	51.3	7	60	156	50	5	278	48	326
		3%	22%	56%	18%	2%	100%		

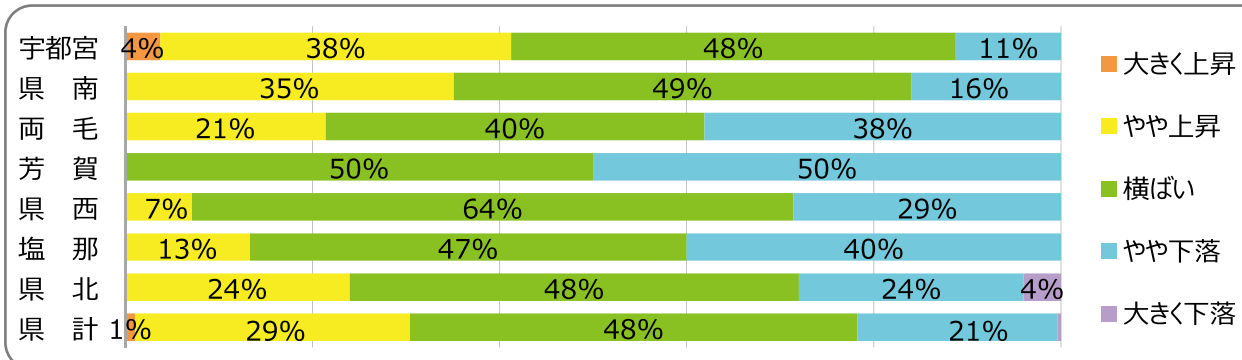


◇問3 6カ月後（R7.10.1時点）の取引価格の予測

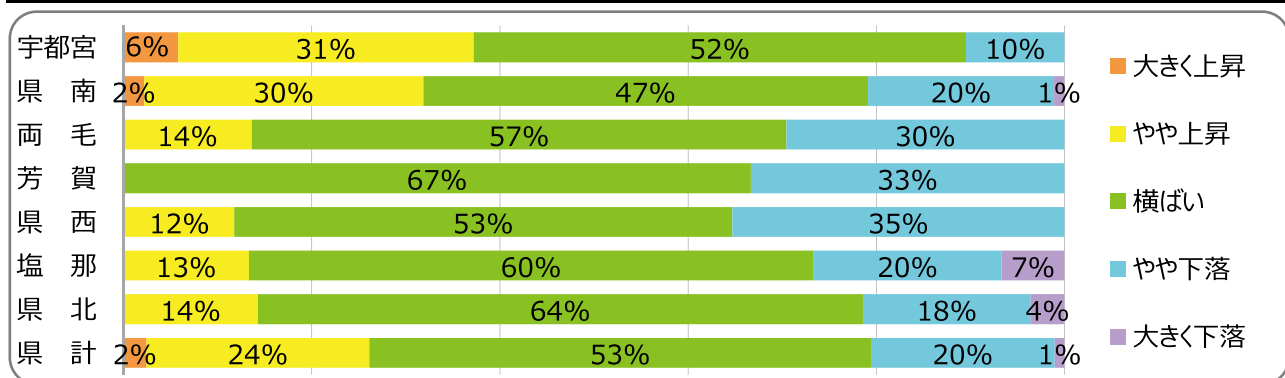
住 宅 地 の 地 価 (予 測)									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明	合計
宇都宮	58.4	4	30	43	9	0	86	9	95
		5%	35%	50%	10%	0%	100%		
県 南	50.0	0	24	50	24	0	98	6	104
		0%	24%	51%	24%	0%	100%		
両 毛	45.2	0	7	24	16	0	47	5	52
		0%	15%	51%	34%	0%	100%		
芳 賀	50.0	0	1	4	1	0	6	0	6
		0%	17%	67%	17%	0%	100%		
県 西	44.1	0	1	11	5	0	17	3	20
		0%	6%	65%	29%	0%	100%		
塩 那	48.3	0	3	8	4	0	15	2	17
		0%	20%	53%	27%	0%	100%		
県 北	53.4	0	6	21	2	0	29	3	32
		0%	21%	72%	7%	0%	100%		
県 計	51.6	4	72	161	61	0	298	28	326
		1%	24%	54%	20%	0%	100%		



商 業 地 の 地 価 (予 測)									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明	合計
宇都宮	58.4	3	30	38	9	0	80	15	95
		4%	38%	48%	11%	0%	100%		
県 南	54.8	0	33	46	15	0	94	10	104
		0%	35%	49%	16%	0%	100%		
両 毛	45.8	0	9	17	16	0	42	10	52
		0%	21%	40%	38%	0%	100%		
芳 賀	37.5	0	0	3	3	0	6	0	6
		0%	0%	50%	50%	0%	100%		
県 西	44.6	0	1	9	4	0	14	6	20
		0%	7%	64%	29%	0%	100%		
塩 那	43.3	0	2	7	6	0	15	2	17
		0%	13%	47%	40%	0%	100%		
県 北	48.0	0	6	12	6	1	25	7	32
		0%	24%	48%	24%	4%	100%		
県 計	52.4	3	81	132	59	1	276	50	326
		1%	29%	48%	21%	0%	100%		

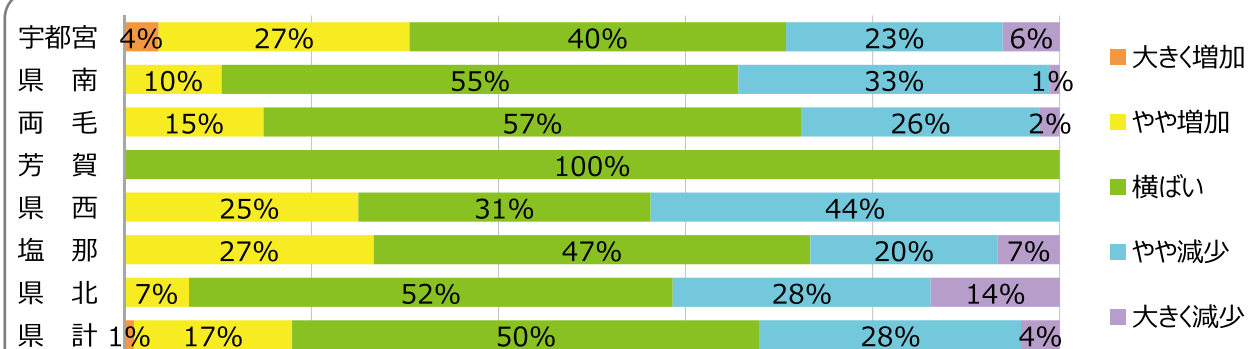


中古住宅の価格（予測）									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明	合計
宇都宮	58.1	5	27	45	9	0	86	9	95
		6%	31%	52%	10%	0%	100%		
県 南	53.0	2	27	43	18	1	91	13	104
		2%	30%	47%	20%	1%	100%		
両 毛	46.0	0	6	25	13	0	44	8	52
		0%	14%	57%	30%	0%	100%		
芳 賀	41.7	0	0	4	2	0	6	0	6
		0%	0%	67%	33%	0%	100%		
県 西	44.1	0	2	9	6	0	17	3	20
		0%	12%	53%	35%	0%	100%		
塩 那	45.0	0	2	9	3	1	15	2	17
		0%	13%	60%	20%	7%	100%		
県 北	47.3	0	4	18	5	1	28	4	32
		0%	14%	64%	18%	4%	100%		
県 計	51.7	7	68	153	56	3	287	39	326
		2%	24%	53%	20%	1%	100%		

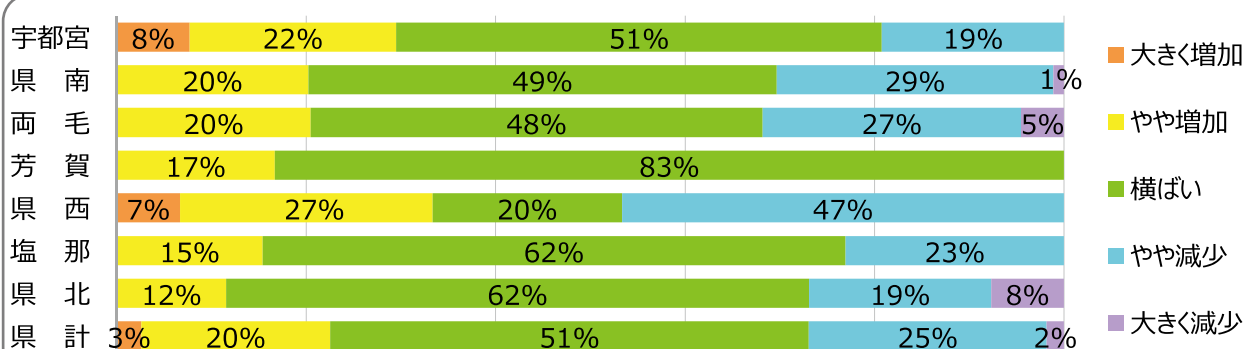


◇問4 取引件数の6カ月前（R6.10.1時点）との比較

宅 地 の 取 引 件 数 (実 感)									
地区	DI値	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	取引無	合計
宇都宮	49.7	3	22	33	19	5	82	13	95
		4%	27%	40%	23%	6%	100%		
県 南	43.8	0	10	53	32	1	96	8	104
		0%	10%	55%	33%	1%	100%		
両 毛	46.3	0	7	27	12	1	47	5	52
		0%	15%	57%	26%	2%	100%		
芳 賀	50.0	0	0	5	0	0	5	1	6
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
県 西	45.3	0	4	5	7	0	16	4	20
		0%	25%	31%	44%	0%	100%		
塩 那	48.3	0	4	7	3	1	15	2	17
		0%	27%	47%	20%	7%	100%		
県 北	37.9	0	2	15	8	4	29	3	32
		0%	7%	52%	28%	14%	100%		
県 計	45.7	3	49	145	81	12	290	36	326
		1%	17%	50%	28%	4%	100%		

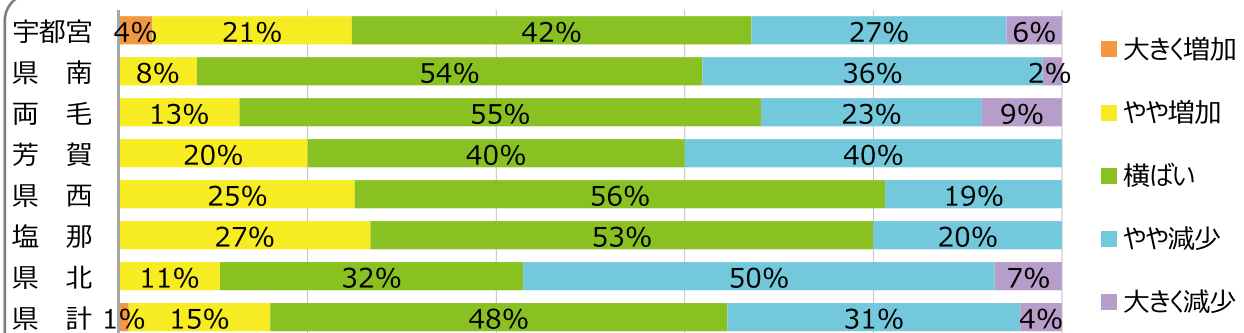


中 古 住 宅 の 取 引 件 数 (実 感)									
地区	DI値	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	取引無	合計
宇都宮	54.5	6	17	40	15	0	78	17	95
		8%	22%	51%	19%	0%	100%		
県 南	47.2	0	18	44	26	1	89	15	104
		0%	20%	49%	29%	1%	100%		
両 毛	46.0	0	9	21	12	2	44	8	52
		0%	20%	48%	27%	5%	100%		
芳 賀	54.2	0	1	5	0	0	6	0	6
		0%	17%	83%	0%	0%	100%		
県 西	48.3	1	4	3	7	0	15	5	20
		7%	27%	20%	47%	0%	100%		
塩 那	48.1	0	2	8	3	0	13	4	17
		0%	15%	62%	23%	0%	100%		
県 北	44.2	0	3	16	5	2	26	6	32
		0%	12%	62%	19%	8%	100%		
県 計	49.1	7	54	137	68	5	271	55	326
		3%	20%	51%	25%	2%	100%		

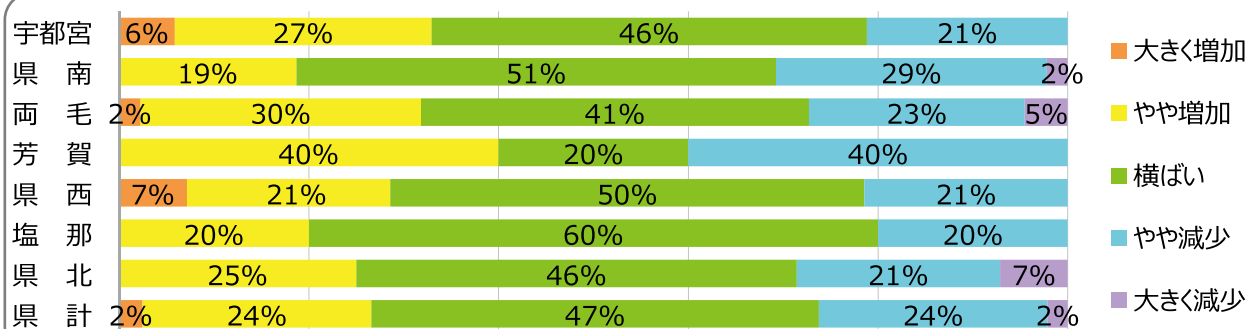


◇問5 6カ月後（R7.10.1時点）の取引件数の予測

宅 地 の 取 引 件 数（予 測）									
地区	DI値	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明	合計
宇都宮	47.4	3	18	36	23	5	85	10	95
		4%	21%	42%	27%	6%	100%		
県 南	42.0	0	8	52	35	2	97	7	104
		0%	8%	54%	36%	2%	100%		
両 毛	43.1	0	6	26	11	4	47	5	52
		0%	13%	55%	23%	9%	100%		
芳 賀	45.0	0	1	2	2	0	5	1	6
		0%	20%	40%	40%	0%	100%		
県 西	51.6	0	4	9	3	0	16	4	20
		0%	25%	56%	19%	0%	100%		
塩 那	51.7	0	4	8	3	0	15	2	17
		0%	27%	53%	20%	0%	100%		
県 北	36.6	0	3	9	14	2	28	4	32
		0%	11%	32%	50%	7%	100%		
県 計	44.3	3	44	142	91	13	293	33	326
		1%	15%	48%	31%	4%	100%		

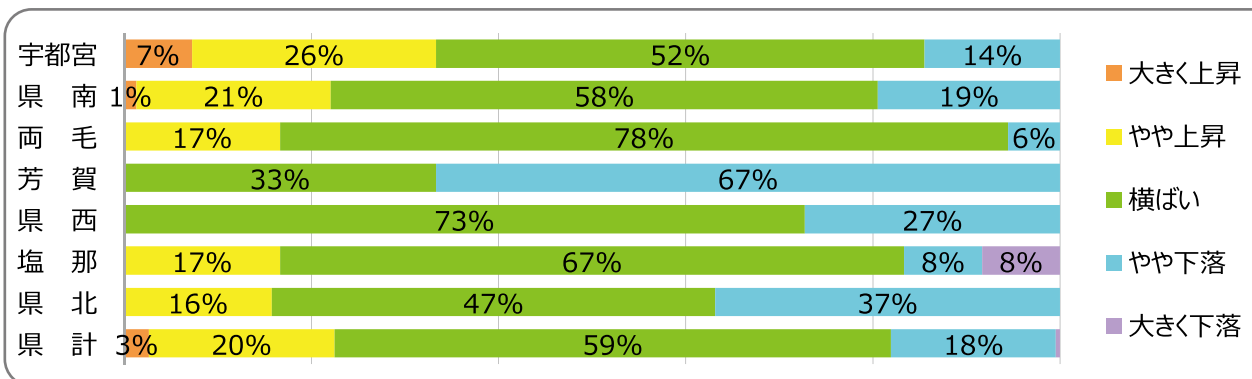


中 古 住 宅 の 取 引 件 数（予 測）									
地区	DI値	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明	合計
宇都宮	54.4	5	23	39	18	0	85	10	95
		6%	27%	46%	21%	0%	100%		
県 南	46.4	0	17	46	26	2	91	13	104
		0%	19%	51%	29%	2%	100%		
両 毛	50.6	1	13	18	10	2	44	8	52
		2%	30%	41%	23%	5%	100%		
芳 賀	50.0	0	2	1	2	0	5	1	6
		0%	40%	20%	40%	0%	100%		
県 西	53.6	1	3	7	3	0	14	6	20
		7%	21%	50%	21%	0%	100%		
塩 那	50.0	0	3	9	3	0	15	2	17
		0%	20%	60%	20%	0%	100%		
県 北	47.3	0	7	13	6	2	28	4	32
		0%	25%	46%	21%	7%	100%		
県 計	50.2	7	68	133	68	6	282	44	326
		2%	24%	47%	24%	2%	100%		

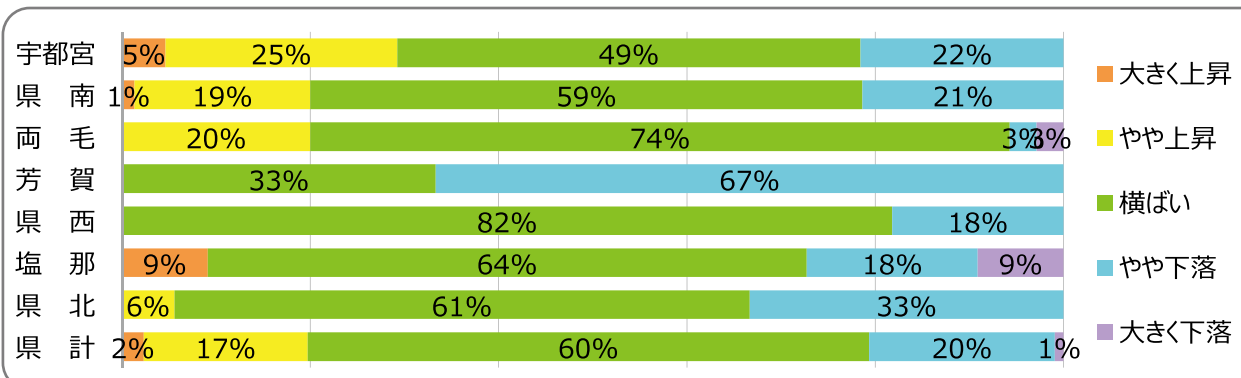


◇問6 賃料の6カ月前（R6.10.1時点）との比較

住居系不動産の家賃（実感）									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	仲介無	合計
宇都宮	56.5	5	18	36	10	0	69	26	95
		7%	26%	52%	14%	0%	100%		
県 南	51.0	1	16	45	15	0	77	27	104
		1%	21%	58%	19%	0%	100%		
両 毛	52.8	0	6	28	2	0	36	16	52
		0%	17%	78%	6%	0%	100%		
芳 賀	33.3	0	0	1	2	0	3	3	6
		0%	0%	33%	67%	0%	100%		
県 西	43.2	0	0	8	3	0	11	9	20
		0%	0%	73%	27%	0%	100%		
塩 那	47.9	0	2	8	1	1	12	5	17
		0%	17%	67%	8%	8%	100%		
県 北	44.7	0	3	9	7	0	19	13	32
		0%	16%	47%	37%	0%	100%		
県 計	51.7	6	45	135	40	1	227	99	326
		3%	20%	59%	18%	0%	100%		

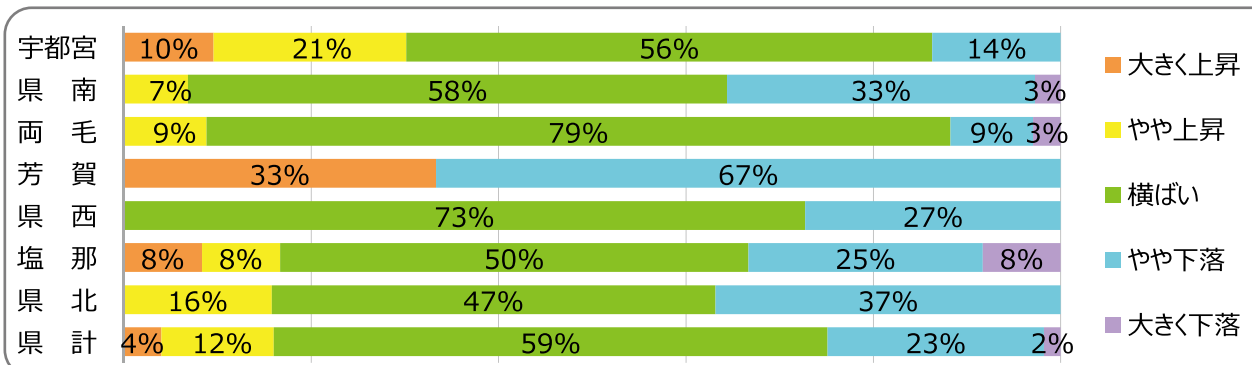


事業用その他不動産の家賃（実感）									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	仲介無	合計
宇都宮	53.1	3	16	32	14	0	65	30	95
		5%	25%	49%	22%	0%	100%		
県 南	50.0	1	14	44	16	0	75	29	104
		1%	19%	59%	21%	0%	100%		
両 毛	52.9	0	7	26	1	1	35	17	52
		0%	20%	74%	3%	3%	100%		
芳 賀	33.3	0	0	1	2	0	3	3	6
		0%	0%	33%	67%	0%	100%		
県 西	45.5	0	0	9	2	0	11	9	20
		0%	0%	82%	18%	0%	100%		
塩 那	45.5	1	0	7	2	1	11	6	17
		9%	0%	64%	18%	9%	100%		
県 北	43.1	0	1	11	6	0	18	14	32
		0%	6%	61%	33%	0%	100%		
県 計	50.1	5	38	130	43	2	218	108	326
		2%	17%	60%	20%	1%	100%		

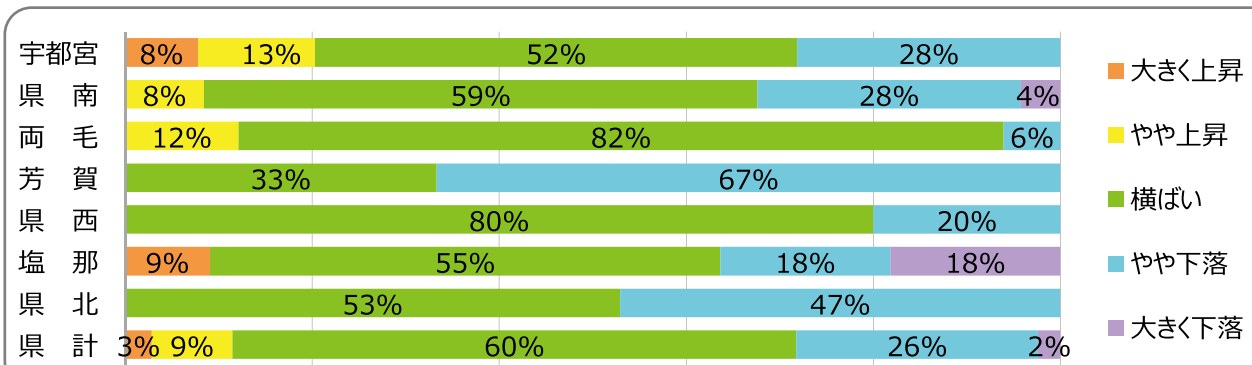


◇問7 入居率の6カ月前（R6.10.1時点）との比較

住居系不動産の入居率（実感）									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明	合計
宇都宮	56.5	7	15	41	10	0	73	22	95
		10%	21%	56%	14%	0%	100%		
県 南	42.1	0	5	42	24	2	73	31	104
		0%	7%	58%	33%	3%	100%		
両 毛	48.5	0	3	27	3	1	34	18	52
		0%	9%	79%	9%	3%	100%		
芳 賀	50.0	1	0	0	2	0	3	3	6
		33%	0%	0%	67%	0%	100%		
県 西	43.2	0	0	8	3	0	11	9	20
		0%	0%	73%	27%	0%	100%		
塩 那	45.8	1	1	6	3	1	12	5	17
		8%	8%	50%	25%	8%	100%		
県 北	44.7	0	3	9	7	0	19	13	32
		0%	16%	47%	37%	0%	100%		
県 計	48.3	9	27	133	52	4	225	101	326
		4%	12%	59%	23%	2%	100%		



事業用その他不動産の入居率（実感）									
地区	DI値	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明	合計
宇都宮	50.0	5	8	33	18	0	64	31	95
		8%	13%	52%	28%	0%	100%		
県 南	43.0	0	6	42	20	3	71	33	104
		0%	8%	59%	28%	4%	100%		
両 毛	51.5	0	4	27	2	0	33	19	52
		0%	12%	82%	6%	0%	100%		
芳 賀	33.3	0	0	1	2	0	3	3	6
		0%	0%	33%	67%	0%	100%		
県 西	45.0	0	0	8	2	0	10	10	20
		0%	0%	80%	20%	0%	100%		
塩 那	40.9	1	0	6	2	2	11	6	17
		9%	0%	55%	18%	18%	100%		
県 北	38.2	0	0	9	8	0	17	15	32
		0%	0%	53%	47%	0%	100%		
県 計	45.9	6	18	126	54	5	209	117	326
		3%	9%	60%	26%	2%	100%		



- ◇問8 近時の金利上昇傾向、資材価格高騰、LRTの開業や延伸計画及び市街地再開発事業による不動産価格への波及効果 等、不動産市場を取り巻く環境の中でここ1年程度での変化等がありましたら、ご自由にお書きください。

宇都宮市	LRTによりJR宇都宮駅東口家賃、大きく上昇。
	資材価格が高くなり、建物がどんどん高くなっている為、総額が上がり、低額予算の方が難しくなっている。
	物価上昇、可処分所得減少に加えて、今後金利上昇したら、不動産を購入出来る層は確実に減少すると思われる。不動産購入時の消費税軽減などの政策があると助かります。
	資材価格や人件費が上昇しているので、商業住居共に、新築価格が上がり、今までの通常のお客様への販売は難しい傾向かとは思いますが、反面、コンセプトが確立されていたり、特定の用途、お客様に合う内容であればコストが高くても採用される傾向は有ると感じております。
	東口はLRTの影響により賃貸の入居率も上がっている事実はある。また土地価格も上昇している。だが土地の取引件数は減少気味と感じる。建築費の高騰でローンの額が5000万円を超えていく物件が多い。なので今は中古住宅に人気が出てきている。それに伴う西口の桜付近のマンションなど人気が高まっている気がする。
	分譲地での一区画の面積が減少。購入者の予算が決まっている状況で、建築費の高騰が土地の価格に影響。坪単価変わらずとも面積で調整。(妥協)
	資材価格高騰における新築住宅は、坪単価が高くなり、宅地取引が減少しております。また、宅地の売価も高くなっている為、なかなか厳しい状況となります。
	造成費用高騰に伴い販売価格に転嫁したいが、市場価格の相場がある為、景気好転を期待したい。
	LRTの影響で需要が増えていきます。(分譲用地)
	土地・建物と価格が上昇する一方、特に建築資材の高騰は依然として定期的に続いている。今後若い世代の人達が土地・建物を購入する事がどれほど大変な事になっていくのだろうと考えると、働き手の賃金の問題も然り、市町村・県・国で様々な融資制度や、補助金等の案が多く出されなければ、自分の土地で家を建てる事が難しい時代に入りそうです。
	固定金利も考える人が増加しているように感じる。
	ネットの集客サイトの影響なのか分かりませんが、このところ土地建物の価格が実体とは考えられないくらい高騰しているように感じます。
	駅東LRT付近の取引増が見込まれる。
	金利上昇が2度ほどあり、同時に賃貸家賃を上昇していかないと事業が厳しくなる。不動産価格についても、上昇が止まらない感じがしている。
	JR宇都宮駅東口→鬼怒通り沿いの賃料が、個人で借りることのできない額となった。

栃木市	金利、資材、人件費等の上昇により住宅の価格が高騰しており、顧客の年収が追いつかず、住宅メーカーの売れ行きも仕入れも少なくなっている傾向な為、結果、土地分譲も厳しい状況である。
	何もかも、全てが高くなりました。それもかなりです。
	相続案件増加により、査定売却案件の増加。
下野市	住宅メーカーの資材高騰で建物新築価格が非常に高いので、一般の方は建売住宅（小型分譲地）にシフトしている。ローンがかつてより組みづらいようである。
壬生町	現在金利の上昇により買い控えが強いと感じます。資材価格の高騰により、建築コストも高騰し新築住宅は伸び悩み、中古住宅も同じく伸び悩みが起きており、しかも土地代も上昇しており、しばらくは取引の鈍化傾向になると感じます。
	コストコを含む、壬生町区画整理事業内の土地の売出坪単価が高かったのは、実体のない価格設定と感じていたが、最近売り出されている土地価格は落ち着いてきた様子ではあるが、それでもまだ高いと感じる。
野木町	昭和40年から不動産も上昇してきましたが、それから40年過ぎて人口が減少し、10年後には相して不動産業が成り立っていただけるかと思っています。
佐野市	所謂「低廉な空き家」による条例改正により、不動産業者と空き家の市場流通の関係性がより活発になっていくことを期待する。
	住宅は建築費の上昇や他複合的な要因により、動きに鈍さが見られる。集合住宅やメーカー分譲地など、大手が絡む動きは横ばい。事業用のニーズも福祉関連や飲食業など、新規や拡大の動きが見られる。
日光市	金利、資材の上昇で契約率が悪くなった。
	中古住宅のリフォーム時、工事代がやや上昇。その為、中古住宅の物件にもよりますが、中古住宅取得後の費用負担増にもなっている。
	地元での販売は地元民ではなく、東京圏の方が多数です。金銭感覚や地震、気候等の対応を早目に察し、逃げ場を探している感じです。
	土地、中古住宅ほとんど動きなしです。
さくら市	新築、築浅を中心に賃貸物件の家賃が上昇している。 資材価格高騰により、リフォームの費用が高くなっている。
	建設資材の上昇に伴い動きが悪い。慎重である。

那須烏山市	芳賀町の物件で、10年以上塩漬けになっていた土地が成約し売れた。
高根沢町	中古住宅の価格査定が難しい局面になっている。3ヶ月で売却できる査定と考えているが、買手希望者が少なく、弱気な査定になってしまう。 当社テリトリーの中古売却売主は地元業者への依頼が少なく、宇都宮の業者への依頼が多い。
大田原市	6年12月の取引（土地は仲介）建物はハウスメーカーで総額3200万円、土地代100坪300万、建物2900万。買主は30代のサラリーマン、50年ローンで決まりました。建物が上がり過ぎて、土地を出来る限り安い所で。これが地方の町の現実です。 住宅用地の取引件数、大幅減。
那須塩原市	年々開発案件が少なくなっている。土地、建物、開発が少なくなっている。 宇都宮西口～大通り近隣の物件、需要は引き続き旺盛、価格も上昇基調。 全般的に居抜物件（特に事業等）の需要が高まっているが、「需要＞供給」の状態。 賃貸は古い物件も決まってきており、入居率がUPしています。

4. 最近の不動産市場についての感想、アンケート回答の補足等の紹介（順不同、●は営業拠点）

●宇都宮市

- ・一棟物マンションの売買が非常に増えている。
- ・建物の解体工事費が上昇している。
- ・ドライバー不足の影響か、引越業者の見積り金額が急上昇している。
- ・契約書を作るのも大変になり、これから対応がもっと大変になり、先が心配になる。
- ・空き家ビジネスは社会問題の解決と共に、社業の発展に繋がる大切な分野と考えており、協会様開催の定例セミナーは勉強になっております。特に前回2025.2.14研修セミナーでは、国土交通省様のお話を含め、今後の空き家についての問題解決方法や、取り組み方に対して知識が高まり感謝申し上げます。
- ・投資案件の取引で問題が出てきている。
ガス屋さんのアパートに投資をして売る額が高額で、売買をするときに問題になっている。オーナーは投資をしたときに契約書も交わしていなかったり、価格を見ていなくそこで問題になっているケースがでてきた。

●小山市

- ・高齢化に伴い、空家が増えてきています。価格についても少し下落している気がします。

●栃木市

- ・県外の投資家の中古アパート、マンションの購入希望が多く見受けられる。
- ・中古住宅の買取専門業者として困っているのが、売主側がインボイスを発行する場合の、土地（非課税）と建物（課税）の区分が、税務上の規制を無視して、意図的に建物取引価格を低く設定したインボイスが発行されるので困っております。
- ・かなり苦しくなって困りました。
- ・外国人の購入が増加。
- ・新築案件減少により、大手メーカーが中古事業へ本格的に力を入れてきた。

●下野市

- ・インスペクションを導入する文化に対して意識が低い。インスペクションの大切なことがなかなか理解されていない。（有料・自己負担になる等）
土壌汚染のことが買主に理解されないことがある。

●壬生町

- ・高齢化の進行による人口減少は、歯止めが利かない状態が続くと思われます。若年層は将来に期待が持てない為、消費活動が消極的になっている傾向にあり、貯蓄や投資に資金流用しており、自身の不動産や建築建物にはお金が使えない（買い控え）になっていると思います。税制改正など大きな変化をしないとダメだと思います。

●足利市

- ・空家の相談が増えた。具体的には調整区域築50年以上、親が住んでいて相談者は別に自宅有りの人。どうにかならないか、売れるのか、泥棒が入って窓が壊されたので、早く処分したいなどです。
- ・問2の現在の取引価格について、住宅・商業・中古の価格は全体的に横ばいと回答しましたが、市内の地域、広さによっては一部上昇もあります。
- ・重説等の書面電子化等の不動産DXによる影響、外国人による不動産取引、賃貸の動向が気になっております。

●佐野市

- ・古い空き家、アパート、マンションが増え続けており、その老朽化に伴う修繕の提案、管理がより重要になってくると思います。
- ・相続登記は思ったより進んでいなく、認知がされていないように感じる。
- ・空家や空店舗、空洞化が見られる一方、外国人（中国、イスラムなど）による取引は増加傾向。他方、アパートや分譲地、ひとまとまりの事業用地に転用できるような、まとまった土地のマッチングは、より難度が増すため難しい。ねばり強く交渉するか、細いニーズを追っていきたい。

●日光市

- ・賃貸は外国人が多く、入居している時の騒音、退去時の二オイ・汚れ等、日本人とは違う問題があります。契約金や賃料の値下げ交渉にいつも困っています。

●さくら市

- ・DX化により、賃貸の大手ハウスメーカーの物件が電子化での契約が進んでいる。DXの波についていける会社と、ついていけない会社に二分されたように思う。
- ・利上げにより、投資物件が活発に動くように思う。

●那須烏山市

- ・東南アジア系の人よりアパート、中古住宅等の引合が最近増えました。

●高根沢町

- ・中古住宅を求める顧客が減少している様を感じる。
- ・当社テリトリーは宅地（土地）のみを求める顧客が多く、多様な建築業者を選定してから土地を物色する方向が一段と強くなっており、宇都宮市の賃貸住まいの一次取得者のベッドタウンとなってきたように感じます。

●大田原市

- ・検済無の物件の説明に力を入れる。

●那須塩原市

- ・外国人による不動産購入の傾向が顕著。
- ・2025年7月5日に起こる天災？などで移住を考えているという来客がある。
- ・観光に関して、那須地方の話題がマスコミ関係にでない。

栃木県内の不動産市場動向に関するアンケート調査票(令和7年4月実施)

- ◆問1 県内における御社(支店・営業所の場合は当該支店・営業所)の主な営業地域についてお聞かせ下さい。
(取扱い件数の最も多い市町を1つ選んで○をつけて下さい。)

県北支部：大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町
 県央支部：宇都宮市、鹿沼市、日光市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町
 県南支部：足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、壬生町、野木町

※ 上記問1で○を付けた主な営業地域(1市町)の全般的傾向について、以下の質問の各項目の1つに○をつけて御回答下さい。

- ◆問2 現在(R7.4.1)の取引価格は6カ月前(R6.10.1)と比較してどのように感じていますか？

住宅地の地価	1. 大きく上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 大きく下落	6. 取引無
商業地の地価	1. 大きく上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 大きく下落	6. 取引無
中古住宅の価格	1. 大きく上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 大きく下落	6. 取引無

- ◆問3 6カ月後(R7.10.1)の取引価格は現在(R7.4.1)と比較してどうなると予測しますか？

住宅地の地価	1. 大きく上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 大きく下落	6. 不明
商業地の地価	1. 大きく上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 大きく下落	6. 不明
中古住宅の価格	1. 大きく上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 大きく下落	6. 不明

- ◆問4 現在(R7.4.1)の取引件数は6カ月前(R6.10.1)と比較してどのように感じていますか？

宅地(更地)の取引	1. 大きく増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 大きく減少	6. 取引無
中古住宅の取引	1. 大きく増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 大きく減少	6. 取引無

- ◆問5 6カ月後(R7.10.1)の取引件数は現在(R7.4.1)と比較してどうなると予測しますか？

宅地(更地)の取引	1. 大きく増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 大きく減少	6. 不明
中古住宅の取引	1. 大きく増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 大きく減少	6. 不明

◆問6 新規成約物件について、現在(R7.4.1)の賃料は6カ月前(R6.10.1)と比較してどのように感じていますか？

住居系不動産の
新規家賃

1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや下落 5. 大きく下落 6. 仲介無

事業用その他不動
産の新規家賃

1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや下落 5. 大きく下落 6. 仲介無

◆問7 現在(R7.4.1)の入居率は6カ月前(R6.10.1)と比較してどのように感じていますか？

住居系不動産の
入居率

1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや下落 5. 大きく下落 6. 不明

事業用その他不動
産の入居率

1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや下落 5. 大きく下落 6. 不明

◆問8 近時の金利上昇傾向、資材価格高騰、LRT の開業や延伸計画及び市街地再開発事業による不動産価格への波及効果等、不動産市場を取り巻く環境の中でここ1年程度での変化等がありましたら、ご自由にお書きください。

◆ 最近の不動産市場についてお気づきの点がございましたら、ご教示下さい。また、上記のアンケート回答に補足することがありましたら、御自由にお書き下さい。

(例: ①空家ビジネスの現状、②重説等の書面電子化等の不動産 DX による影響、③近年激甚化する水害、地震等の災害による影響、④高齢化の進行や人口減少(特に若年層の減少)の影響、⑤インスペクションの影響、⑥投資物件の取引の動向、⑦インバウンドを含めた観光客数の変動による地価への影響、⑧外国人による不動産取引、賃貸の動向、⑨立地適正化計画整備による地価変動の影響、⑩マンション需要の動向、⑪住宅ローン控除等の税制動向による影響 等)

以上で質問は終わりです。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

発行者

公益社団法人 栃木県宅地建物取引業協会
会 長 青木 亨

〒320-0046

栃木県宇都宮市西一の沢町6-27 栃木県不動産会館

T E L 028-634-5611

F A X 028-634-5670

U R L <https://www.tochitaku.or.jp/>

公益社団法人 栃木県不動産鑑定士協会
会 長 鈴木 健司

〒321-0953

栃木県宇都宮市東宿郷4-2-20 KDビル5階B号

T E L 028-639-0556

F A X 028-639-9411

U R L <https://www.kanteishi.or.jp/>

※ 無断複製転載を禁じます。

